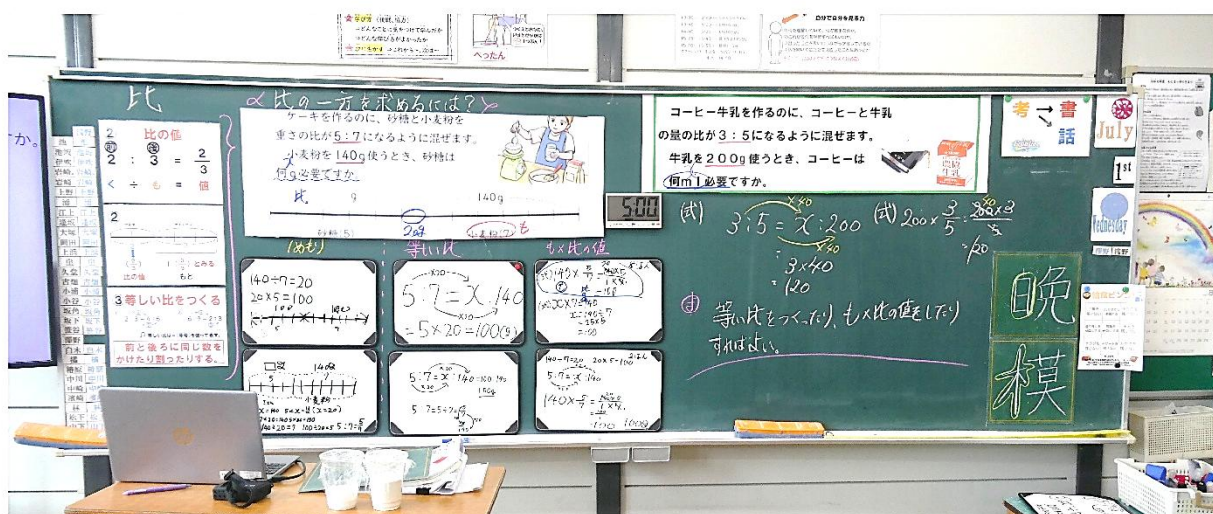


compass ~コンパス~



計画訪問、お疲れ様でした

学期末の大変な時期での訪問となりましたが、無事終わることができました。みなさん、本当にお疲れ様でした。そして、代表で提案授業を公開してくださった角間先生、ありがとうございました。子どもたちが、学習課題に向き合い、互いに学び合う姿が随所に見られました。角間先生が、普段から学級づくりに力を入れ、集団として成長させてきたことがよく伝わってきました。



以下、授業整理会で話し合われたことや指導主事からご指摘いただいた点について、まとめます。

【ねらい】

比の一方の値を求める方法を、比の性質や図を用いて考え、書いたり伝えたりする。

ねらいの達成：96%

【めざす児童の姿】

比の前項の値から後項の値を求めるとき、「比の一方の量を1とみたもう一方の値を利用して考える」「等しい比の式を作って考える」のいずれかの方法を用いて求め、書いたり伝えたりしている。

自分の考えを表現（書く or 話す）ことができた児童：100%

【授業者より】

○既習やヒントカードを有効に活用して、授業を行うことができた。

○1組で同じ場面を実践し、それを本時でも生かすことができた。

△各班のホワイトボードの考えを板書上で、もっとまとめてもよかった。

△最後の適用題では、Xの位置が逆になる。その点についての声かけがあってもよかった。

【授業整理会のグループ協議より】

(成果)

解決意欲を高める導入の工夫

- ・児童の言葉を大切に課題を設定したり、写真提示をしたりする導入の工夫により、課題解決への意欲を高めることができていた。

既習や必要に応じたヒントカードの提示

- ・既習掲示（比の値、等しい比など）をしっかりと確認して授業に臨んだことで、児童がこれまでの学習を振り返りながら自分なりに考えを持つための大きな手助けとなった。
- ・机間指導（見取り）を通し、つまずいている児童にヒントカードを提示することで、考えが持てない児童が動き出すきっかけとなっていた。

アウトプットの場の設定と対話の機会

- ・短時間のペア学習や班活動を意図的に取り入れたことで、他者の考えに触れて自分の考えを広げたり、深めたりする姿が見られた。

(課題や改善策)

児童にとって必要感がもてるような工夫

- ・グループで話し合う前に、「何のために話し合うのか」という目的意識を児童により明確に持たせる必要がある。
- ・既習掲示を示すタイミングや、「どの既習が使えるか」という児童自身の必要感をいかに持たせるかが今後の課題である。

児童の考えを基に学びを深める教師の関わり

- ・児童から出された考えを、クラス全体の学びを深めるためにどう取り上げ、つなげていくかという教師のファシリテートが必要。
- ・児童の考えを整理していく際に、式や図の意味をより丁寧に確認していくための工夫が必要。

授業の中で価値付ける児童の姿の具体化(自己調整している姿とは??)

- ・児童の学び方や変容をその場で具体的に価値付ける（褒める・評価する）場面が少なかった。
- ・本時だけでなく、他教科や今後の学習にも生かせるような、「自己成長を実感させる価値付け」をさらに充実させる必要がある。

【指導主事より】…今後に向けて

- ・自力解決の後の交流の場面、児童によって学びの進みはバラバラだった。班活動を行ったが、分からない子は分からないまま終わっていた可能性がある。それぞれの児童がどこまで分かっていて、どこからが分からないのかを把握した上でどんな交流の場が適切なのかを考え、設定することが大切。→児童のペースに合わせた交流
- ・「5：7の5をもとにして、7はその1. 4倍にあたる」という考えも出ていた。想定外の考えだったが、このような考えも取り上げながら、他の考えとの共通点や相違点などを整理し、まとめていけるとよい。
- ・最後の適用題では、数字の関係性（どの数がどこに当てはまるか）について、自力で考えさせることが大切。